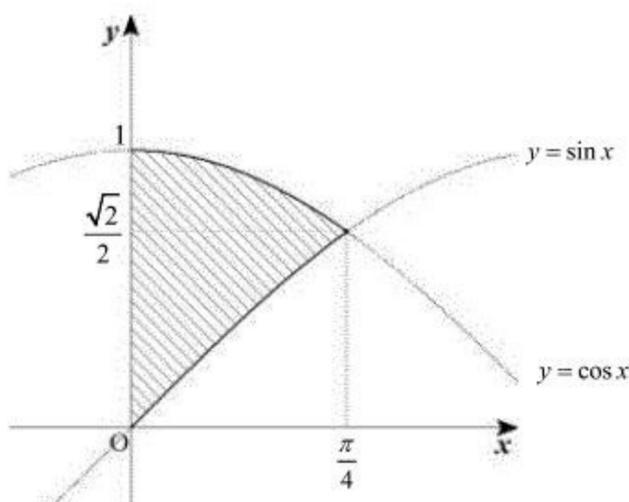


〔1〕

(1)



図形 D は上図の斜線部分であり、その面積は、

$$\begin{aligned} \int_0^{\frac{\pi}{4}} (\cos x - \sin x) dx &= [\sin x + \cos x]_0^{\frac{\pi}{4}} \\ &= \left(\frac{\sqrt{2}}{2} + \frac{\sqrt{2}}{2} \right) - (0 + 1) \\ &= \sqrt{2} - 1 \end{aligned}$$

となる。

(答) $\sqrt{2} - 1$

(2)

それぞれ部分積分を用いて、

$$\begin{aligned} \int x \sin x dx &= \int x (-\cos x)' dx \\ &= -x \cos x + \int \cos x dx \\ &= -x \cos x + \sin x + C_1 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \int x \cos x dx &= \int x (\sin x)' dx \\ &= x \sin x - \int \sin x dx \\ &= x \sin x + \cos x + C_2 \end{aligned}$$

となる。ただし C_1, C_2 は積分定数とする。

(答) $\int x \sin x dx = -x \cos x + \sin x + C_1$

$\int x \cos x dx = x \sin x + \cos x + C_2$

(3)

部分積分法と(2)の結果を用いて、

$$\begin{aligned} \int x^2 \sin x dx &= \int x^2 (-\cos x)' dx \\ &= -x^2 \cos x + \int 2x \cos x dx \\ &= -x^2 \cos x + 2x \sin x + 2 \cos x + C_3 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \int x^2 \cos x dx &= \int x^2 (\sin x)' dx \\ &= x^2 \sin x - \int 2x \sin x dx \\ &= x^2 \sin x + 2x \cos x - 2 \sin x + C_4 \end{aligned}$$

となる。ただし C_3, C_4 は積分定数とする。

(答) $\int x^2 \sin x dx = -x^2 \cos x + 2x \sin x + 2 \cos x + C_3$

$\int x^2 \cos x dx = x^2 \sin x + 2x \cos x - 2 \sin x + C_4$

(4)

曲線 C_1, C_2 の方程式をそれぞれ、

$$y_1 = \sin x_1 \quad (0 \leq x_1 \leq \frac{\pi}{4})$$

$$y_2 = \cos x_2 \quad (0 \leq x_2 \leq \frac{\pi}{4})$$

とすると、求める立体の体積 V は、

$$V = \pi \int_0^{\frac{\sqrt{2}}{2}} x_1^2 dy_1 + \pi \int_{\frac{\sqrt{2}}{2}}^1 x_2^2 dy_2$$

となる。 $\pi \int_0^{\frac{\sqrt{2}}{2}} x_1^2 dy_1$ について、 $y_1 = \sin x_1$ であるから、

$$\frac{dy_1}{dx_1} = \cos x_1$$

であり、 y_1 と x_1 は次のように対応する。

y_1	0	→	$\frac{\sqrt{2}}{2}$
x_1	0	→	$\frac{\pi}{4}$

以上より、

$$\begin{aligned} \pi \int_0^{\frac{\sqrt{2}}{2}} x_1^2 dy_1 &= \pi \int_0^{\frac{\pi}{4}} x_1^2 \frac{dy_1}{dx_1} dx_1 \\ &= \pi \int_0^{\frac{\pi}{4}} x^2 \cos x dx \\ &= \pi \left[x^2 \sin x + 2x \cos x - 2 \sin x \right]_0^{\frac{\pi}{4}} \\ &= \frac{\sqrt{2}}{32} \pi^3 + \frac{\sqrt{2}}{4} \pi^2 - \sqrt{2} \pi \end{aligned}$$

となる。同様に、 $\pi \int_{\frac{\sqrt{2}}{2}}^1 x_2^2 dy_2$ について、 $y_2 = \cos x_2$ であるから、

$$\frac{dy_2}{dx_2} = -\sin x_2$$

であり、 y_2 と x_2 は次のように対応する。

y_2	$\frac{\sqrt{2}}{2}$	→	1
x_2	$\frac{\pi}{4}$	→	0

以上より、

$$\begin{aligned} \pi \int_{\frac{\sqrt{2}}{2}}^1 x_2^2 dy_2 &= \pi \int_{\frac{\pi}{4}}^0 x_2^2 \frac{dy_2}{dx_2} dx_2 \\ &= \pi \int_{\frac{\pi}{4}}^0 (-x^2 \sin x) dx \\ &= \pi \int_0^{\frac{\pi}{4}} x^2 \sin x dx \\ &= \pi \left[-x^2 \cos x + 2x \sin x + 2 \cos x \right]_0^{\frac{\pi}{4}} \\ &= -\frac{\sqrt{2}}{32} \pi^3 + \frac{\sqrt{2}}{4} \pi^2 + \sqrt{2} \pi - 2\pi \end{aligned}$$

となる。よって、

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_0^{\frac{\sqrt{2}}{2}} x^2 dy + \pi \int_{\frac{\sqrt{2}}{2}}^1 x^2 dy \\ &= \left(\frac{\sqrt{2}}{32} \pi^3 + \frac{\sqrt{2}}{4} \pi^2 - \sqrt{2} \pi \right) + \left(-\frac{\sqrt{2}}{32} \pi^3 + \frac{\sqrt{2}}{4} \pi^2 + \sqrt{2} \pi - 2\pi \right) \\ &= \frac{\sqrt{2}}{2} \pi^2 - 2\pi \end{aligned}$$

と求められる。

(答) $\frac{\sqrt{2}}{2} \pi^2 - 2\pi$

[2]

(1)

$y = f(x)$ のグラフ上に格子点が存在することは、 $y = f(x)$ を満たすような整数の組 (x, y) が存在することと同値である。 $f(x)$ は

$$\begin{aligned} f(x) &= \frac{1}{3}(x^3 + 3x^2 - x - 2) \\ &= \frac{1}{3}(x-1)x(x+1) + x^2 - \frac{2}{3} \end{aligned}$$

と変形でき、 x が整数であるとき、 $(x-1)x(x+1)$ は連続する3つの整数の積であるから3の倍数である。よって、 $\frac{1}{3}(x-1)x(x+1)$ は整数であり、 $f(x) = \frac{1}{3}(x-1)x(x+1) + x^2 - \frac{2}{3}$ は2つの整数と整数でない数の和となるから $f(x)$ は整数ではない。以上より、 $y = f(x)$ を満たすような整数の組 (x, y) は存在せず、 $y = f(x)$ のグラフ上に格子点は存在しない。

(証明終了)

(2)

$f(x)$ を微分すると、

$$\begin{aligned} f'(x) &= \frac{1}{3}(3x^2 + 6x - 1) \\ &= x^2 + 2x - \frac{1}{3} \end{aligned}$$

となるから、 $(n, f(n))$ における接線 ℓ は

$$\begin{aligned} y &= \left(n^2 + 2n - \frac{1}{3}\right)(x - n) + \frac{1}{3}(n^3 + 3n^2 - n - 2) \\ &= (n^2 + 2n)(x - n) + \frac{1}{3}(n-1)n(n+1) + n^2 - \frac{1}{3}(x - n + 2) \end{aligned}$$

と表せる。ここで、整数 m を用いて $x = 3m + n - 2$ と表したとき、 x は整数であり、

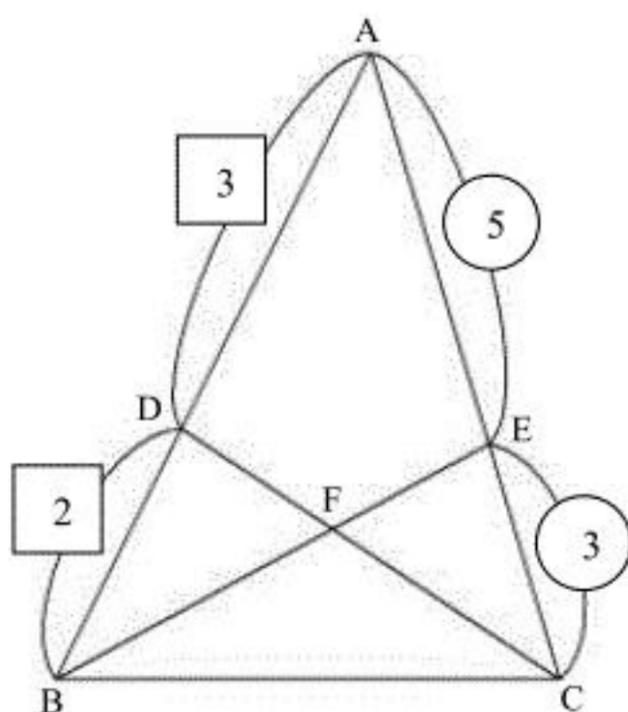
$$-\frac{1}{3}(x - n + 2) = -m$$

より、 $-\frac{1}{3}(x - n + 2)$ は整数となる。また、 $(n^2 + 2n)(x - n)$ 、 $\frac{1}{3}(n-1)n(n+1)$ 、 n^2 のいずれも整数であることから、 y は整数の和で表せるから整数となる。よって、整数の組 (x, y) は無数に存在し、直線 ℓ 上には無限に多くの格子点が存在する。

(証明終了)

[3]

(1)



三角形ACDと直線BEにおいて、メネラウスの定理より

$$\begin{aligned} \frac{EC}{AE} \cdot \frac{FD}{CF} \cdot \frac{AB}{DB} &= 1 \\ \Leftrightarrow \frac{3}{5} \cdot \frac{FD}{CF} \cdot \frac{5}{2} &= 1 \\ \Leftrightarrow \frac{FD}{CF} &= \frac{2}{3} \\ \therefore CF:FD &= 3:2 \end{aligned}$$

となる。

(答) CF:FD=3:2

(2)

4点D, B, C, Eが同一円周上にある時、方べきの定理から

$$\begin{aligned} AD \cdot AB &= AE \cdot AC \\ \Leftrightarrow \frac{3}{5} AB \cdot AB &= \frac{5}{8} AC \cdot AC \\ \Leftrightarrow AC^2 &= \frac{24}{25} AB^2 \\ \therefore AC &= \frac{2\sqrt{6}}{5} AB \end{aligned}$$

となる。よって、

$$AB:AC = AB:\frac{2\sqrt{6}}{5}AB = 5:2\sqrt{6}$$

となる。また、円の中心が辺BC上にあるとき、BCは円の直径となり、 $\angle CDB$ は直径に対する円周角であるので

$$\angle CDB = 90^\circ$$

となる。このとき、三角形ADCと三角形BDCにおいて、三平方の定理から

$$\begin{aligned} AC^2 - AD^2 &= BC^2 - DB^2 \\ \Leftrightarrow AC^2 - \left(\frac{3}{5}AB\right)^2 &= BC^2 - \left(\frac{2}{5}AB\right)^2 \end{aligned}$$

となる。ここで、 $AC^2 = \frac{24}{25}AB^2$ より

$$\begin{aligned} \frac{24}{25}AB^2 - \left(\frac{3}{5}AB\right)^2 &= BC^2 - \left(\frac{2}{5}AB\right)^2 \\ \Leftrightarrow BC^2 &= \frac{19}{25}AB^2 \\ \therefore BC &= \frac{\sqrt{19}}{5}AB \end{aligned}$$

となる。以上より、

$$AB:AC:BC = AB:\frac{2\sqrt{6}}{5}AB:\frac{\sqrt{19}}{5}AB = 5:2\sqrt{6}:\sqrt{19}$$

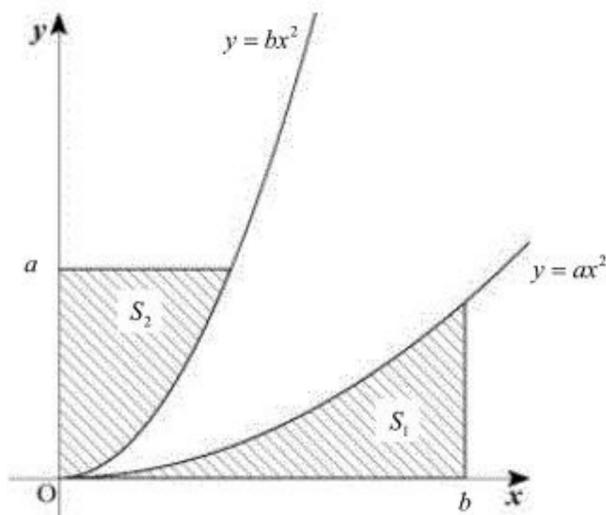
となる。

(答) AB:AC=5:2√6
AB:AC:BC=5:2√6:√19

[4]

(1)

曲線 C_1, C_2 および S_1, S_2 は下図の実線部および斜線部となる。



よって、面積 S_1 は図より、

$$S_1 = \int_0^b ax^2 dx = \left[\frac{a}{3}x^3 \right]_0^b = \frac{ab^3}{3}$$

となる。(*)

また、

$$C_2: y = bx^2 (x \geq 0) \Leftrightarrow x = \sqrt{\frac{y}{b}} (\because b > 0)$$

より、面積 S_2 は、

$$S_2 = \int_0^a \sqrt{\frac{y}{b}} dy = \left[\frac{2y\sqrt{y}}{3\sqrt{b}} \right]_0^a = \frac{2a}{3} \sqrt{\frac{a}{b}}$$

と求まる。

(答) $S_1 = \frac{ab^3}{3}, S_2 = \frac{2a}{3} \sqrt{\frac{a}{b}}$

(2)

(1)の答えより、

$$\begin{aligned} S_1 &= S_2 \\ \Leftrightarrow \frac{ab^3}{3} &= \frac{2a}{3} \sqrt{\frac{a}{b}} \\ \Leftrightarrow b^3 &= 2\sqrt{\frac{a}{b}} (\because a > 0) \end{aligned}$$

であり、両辺を2乗して、

$$\begin{aligned} b^6 &= \frac{4a}{b} \\ \Leftrightarrow a &= \frac{b^7}{4} \end{aligned}$$

となる。

(答) $a = \frac{b^7}{4}$

(3)

(2)より、

$$S_1 = S_2 = \frac{b^7}{4} \cdot \frac{b^3}{3} = \frac{b^{10}}{12}$$

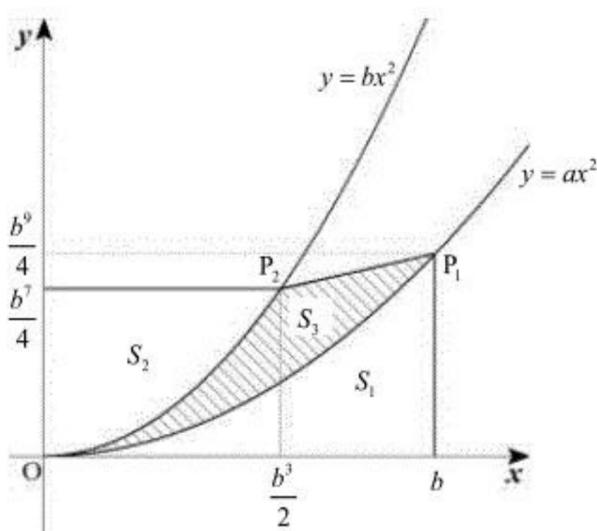
であり、 $P_1 \left(b, \frac{b^9}{4} \right)$ となる。また、 P_2 については

$$bx^2 = \frac{b^7}{4} \Leftrightarrow x = \frac{b^3}{2} (\because x > 0, b > 0)$$

より、 $P_2 \left(\frac{b^3}{2}, \frac{b^7}{4} \right)$ となる。このとき、 $a < b^3$ より

$$\begin{aligned} \frac{b^7}{4} &< b^3 \\ \Leftrightarrow \frac{b^6}{4} &< b^2 (\because b > 0) \\ \therefore \frac{b^3}{2} &< b (\because b > 0) \end{aligned}$$

である。下図より、面積 S_3 は、縦の長さ $\frac{b^7}{4}$ 、横の長さ $\frac{b^3}{2}$ の長方形と上辺 $\frac{b^7}{4}$ 、下辺 $\frac{b^9}{4}$ 、高さ $b - \frac{b^3}{2}$ の台形を合わせたものの面積から、 S_1, S_2 を除いた面積であるので、



$$\begin{aligned} S_3 &= \frac{b^3}{2} \cdot \frac{b^7}{4} + \frac{1}{2} \left(\frac{b^7}{4} + \frac{b^9}{4} \right) \left(b - \frac{b^3}{2} \right) - S_1 - S_2 \\ &= \frac{b^{10}}{8} - \frac{b^8}{16} (b^2 + 1)(b^2 - 2) - 2 \cdot \frac{b^{10}}{12} \\ &= -\frac{b^{12}}{16} + \frac{b^{10}}{48} + \frac{b^8}{8} \end{aligned}$$

となる。

(答) $S_3 = -\frac{b^{12}}{16} + \frac{b^{10}}{48} + \frac{b^8}{8}$

(4)

$$\begin{aligned} S_1 &= S_3 \\ \Leftrightarrow \frac{b^{10}}{12} &= -\frac{b^{12}}{16} + \frac{b^{10}}{48} + \frac{b^8}{8} \\ \Leftrightarrow \frac{b^{12}}{16} + \frac{b^{10}}{16} - \frac{b^8}{8} &= 0 \end{aligned}$$

である。両辺を $\frac{b^8}{16} (\neq 0)$ で割って、

$$\begin{aligned} b^4 + b^2 - 2 &= 0 \\ \Leftrightarrow (b^2 - 1)(b^2 + 2) &= 0 \\ \Leftrightarrow b^2 = 1 (\because b^2 > 0) \\ \Leftrightarrow b = 1 (\because b > 0) \end{aligned}$$

となる。これと $a = \frac{b^7}{4}$ より、

$$a = \frac{1}{4}$$

である。

(答) $a = \frac{1}{4}, b = 1$